

久留米市城島町遺跡等詳細分布調査報告書

平成22年（2010）3月

久留米市教育委員会

久留米市城島町遺跡等詳細分布調査報告書

平成22年（2010）3月

久留米市教育委員会

序

平成 17 年 2 月 5 日、北野・田主丸・三藩・城島の 4 町と久留米市とが広域合併し、人口 30 万人を超える新たな「久留米市」が誕生いたしました。合併後は旧 1 市 4 町の特徴を活かし、九州最大の河川である筑後川と耳納連山に象徴されるように、豊かな水と緑に囲まれ、生活環境にも恵まれた文化都市として発展を続けています。また久留米市内には先人たちの残した貴重な足跡である文化財が数多く存在しており、古来からの歴史が大地の至るところに刻み込まれています。

ここに報告する城島町遺跡詳細分布調査報告書は、平成 19 年度から 3 ヶ年をかけて実施した国庫補助事業による調査です。旧城島町では平成 16 年度・17 年度に町内で行われた久保遺跡の調査によって、標高の低い地域でも規模の大きな集落遺跡が存在することが確認され、城島町の遺跡の広がりを考える上での好機となりました。また、これに伴い住民の郷土史への関心が高まる一方、各種開発の波に押され、行政としての文化財保護と各種開発との調整の円滑化を図ることが急務となりました。

今回の調査によって、現在まで知られていない歴史遺産を発見し、周知の埋蔵文化財包蔵地として遺跡を確認することができました。今後は収集したデータを整理し、得られた調査成果と今後の周辺における調査により、城島町の歴史に新たな知見がもたらされることを期待し、更には本書の発行によって正しい地域歴史の解明、更には文化財保護思想の理解と普及に多少なりとも貢献できれば幸いです。

最後になりましたが、分布調査に際して多大なご協力・ご理解をいただきました旧城島町の皆様、並びに関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成 22 年 3 月 31 日

久留米市教育委員会
教育長 堤 正則

例 言

1. 本書は、平成19～21年度に久留米市が国・県の補助事業を受けて実施した、久留米市城島町遺跡等詳細分布調査の報告書であり、昭和54年発行の『福岡県遺跡等分布地図（大川市・筑後市・三潯郡編）』（以下、「県分布地図」という）のうち、城島町分の増補・改訂版である。
2. 調査は久留米市教育委員会の委嘱を受けて、久留米市文化観光部文化財保護課の塚本映子が担当した。調査方法は踏査にて実施した。
3. 調査の記録写真は塚本が撮影した。
4. 本書に使用した地図は久留米市役所が作成した地形図（1/100,000・1/5,000）である。
5. 遺跡の時代区分は福岡県文化財カードに基づき下記のとおりとする。

旧石器・縄文・弥生・古墳・飛鳥・奈良・平安・鎌倉・室町・戦国・安土桃山・江戸・明治・大正・昭和前・昭和後・平成・不明

ただし、時代区分が明確でないものについてはおおまかに、古代（旧石器～平安）・中世（鎌倉～戦国）・近世（安土桃山～江戸）・現代（明治～平成）とした。
6. 分布地図の記号は下記のとおりとする。

○ 散布地等 □ 城跡 ● その他（古墓・石塔・板碑等）
7. 本書は平成22年3月31日現在のものである。調査方法も踏査による確認であり、今後の調査等により範囲の変更及び新発見の遺跡の追加等が考えられる。
8. 分布地図中に記載している遺跡の範囲は、旧字図を基に作成した。
9. 分布地図中の文字色で赤は周知の埋蔵文化財包蔵地、青は参考資料として掲載した石像物の位置を表す。
10. 調査に関わる遺物・記録類は、すべて久留米市埋蔵文化財センターに収蔵・保管され、活用される予定である。
11. 本書の執筆・編集は塚本が行った。

本文目次

I. はじめに	1
1. 調査に至る経過	1
2. 調査の体制	1
II. 調査の内容	3
城島町管内地図割付図・遺跡等分布地図	3
城島町遺跡等一覧表	33
城島町主要石像物一覧表	35
III. おわりに	36
報告書抄録	巻末

挿図目次

第1図 城島町管内地図割付図	3
第2図 遺跡等分布地図1 (1/2,500)	4
第3図 遺跡等分布地図2 (1/2,500)	5
第4図 遺跡等分布地図3 (1/2,500)	6
第5図 遺跡等分布地図4 (1/2,500)	7
第6図 遺跡等分布地図5 (1/2,500)	8
第7図 遺跡等分布地図6 (1/2,500)	9
第8図 遺跡等分布地図7 (1/2,500)	10
第9図 遺跡等分布地図8 (1/2,500)	11
第10図 遺跡等分布地図9 (1/2,500)	12
第11図 遺跡等分布地図10 (1/2,500)	13
第12図 遺跡等分布地図11 (1/2,500)	14
第13図 遺跡等分布地図12 (1/2,500)	15
第14図 遺跡等分布地図13 (1/2,500)	16

第15図	遺跡等分布地図14 (1 / 2,500)	17
第16図	遺跡等分布地図15 (1 / 2,500)	18
第17図	遺跡等分布地図16 (1 / 2,500)	19
第18図	遺跡等分布地図17 (1 / 2,500)	20
第19図	遺跡等分布地図18 (1 / 2,500)	21
第20図	遺跡等分布地図19 (1 / 2,500)	22
第21図	遺跡等分布地図20 (1 / 2,500)	23
第22図	遺跡等分布地図21 (1 / 2,500)	24
第23図	遺跡等分布地図22 (1 / 2,500)	25
第24図	遺跡等分布地図23 (1 / 2,500)	26
第25図	遺跡等分布地図24 (1 / 2,500)	27
第26図	遺跡等分布地図25 (1 / 2,500)	28
第27図	遺跡等分布地図26 (1 / 2,500)	29
第28図	遺跡等分布地図27 (1 / 2,500)	30
第29図	遺跡等分布地図28 (1 / 2,500)	31
第30図	遺跡等分布地図29 (1 / 2,500)	32

表 目 次

第1表	城島町遺跡等一覧表	33
第2表	城島町主要石像物一覧表	35

図 版 目 次

図版1 (1) 調査風景	図版2 (1) 浮島・厳島神社狛犬 (石9)
(2) 土器散布状況	(2) 浮島・厳島神社狛犬 (石9)
(3) 宮ノ脇板碑	(3) 六地藏 (石2)
(4) 導善板碑	(4) 日吉神社肥前狛犬 (石21)
(5) 北小路地藏板碑群	(5) 西青木天満宮板碑 (石16)
(6) 庄屋門	(6) 江上・板碑群 (石19)
(7) 九品寺跡	(7) 上青木・六地藏群 (石26)
(8) 東江上城跡の祠	(8) 檜津・板碑 (石7)

I. はじめに

1. 調査に至る経過

本調査は、平成19年度と平成20年度の2ヵ年にわたって城島町内の踏査を実施し、平成21年度に詳細遺跡分布地図作成として実施した国庫補助事業である。町内を県道城島・大川線を境として南北に分け、平成19年度に北部地区を、平成20年度に南部地区を対象区として踏査し、その結果、散布地を主とした49箇所の遺跡等を発見・確認した。なお、上記記述のとおり、確認・発見はすべて現地踏査によるものである。調査実施の対象時期としては、兩年とも田畑の現地踏査である点を考慮し、稲刈り後から麦蒔きまでの1月から3月にかけて実施した。また、当初の計画では、踏査による遺跡の分布調査を主体に実施するようにしていたが、調査中町内を歩くにつれ、城島町内に残る石像物の数に目を見張るものがあり、中世に遡る石像物も数体確認されたことから、遺物の散布による把握のみならず、石像物をとおして中世以降の集落の移り変わりを推し量る貴重な手がかりの一つになると判断し、調査2年目には遺跡の分布などのほか、町内に残る石像物についての定点確認もあわせて実施した。

2. 調査の体制

城島町遺跡等詳細分布調査にかかる調査体制は下記のとおりである。

《平成19年度》

調査主体：久留米市教育委員会	教育長	石川 集充		
調査総括：久留米市文化観光部	部 長	緒方 真一	次 長	辻 文孝
文化財保護課	課 長	関 知彦		
課長補佐兼課主査		立石 雅文	山口 淳	
事務主査		松村 一良	近澤 康治	
庶務担当		本庄ともえ	調査担当	塚本 映子

調査臨時職員

蒲池 久枝・土井 順子・森山タエ子・田中 輝子

出土品整理臨時職員

西村ますみ・原口かすみ・山下 留美

《平成20年度》

調査主体：久留米市教育委員会	教育長	石川 集充		
調査総括：久留米市文化観光部	部 長	中園 雄介	次 長	辻 文孝
文化財保護課	課 長	水落 哲也		
課長補佐兼課主査		立石 雅文	山口 淳	古賀 正美

事務主査	松村 一良	近澤 康治
庶務担当	本庄ともえ	調査担当 塚本 映子

調査臨時職員

蒲池 久枝・土井 順子・原 越子・田中 輝子

出土品整理臨時職員

西村ますみ・若林 由美・佐島 智雪

《平成 21 年度》

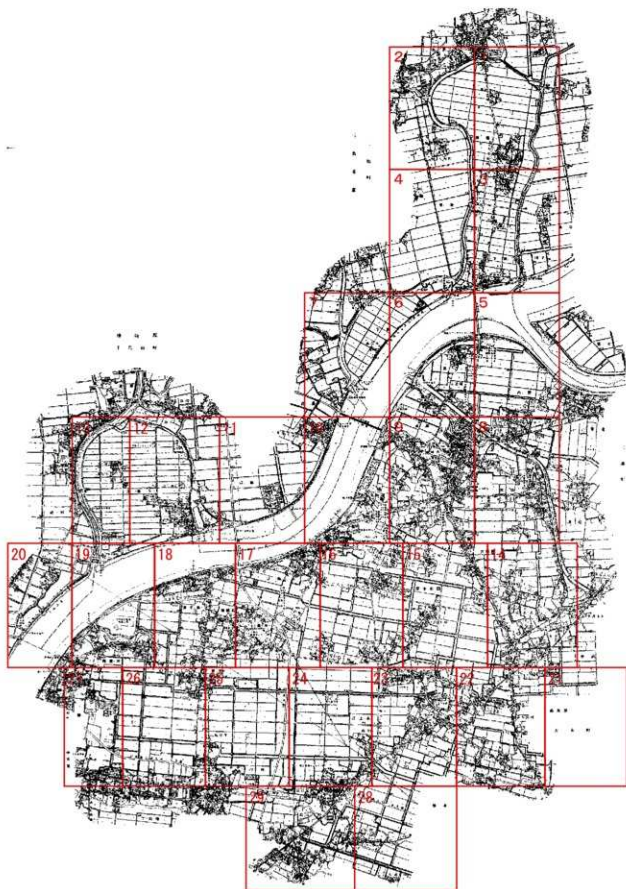
調査主体：久留米市教育委員会	教育長	堤 正則	
調査総括：久留米市文化観光部	部長	中園 雄介	次 長 辻 文孝
文化財保護課	課 長	水落 哲也	
	学芸主幹	山口 淳	
課長補佐兼課主査	立石 雅文	古賀 正美	
事務主査	近澤 康治	白木 守	
庶務担当	本庄ともえ	報告書担当	塚本 映子

出土品整理臨時職員

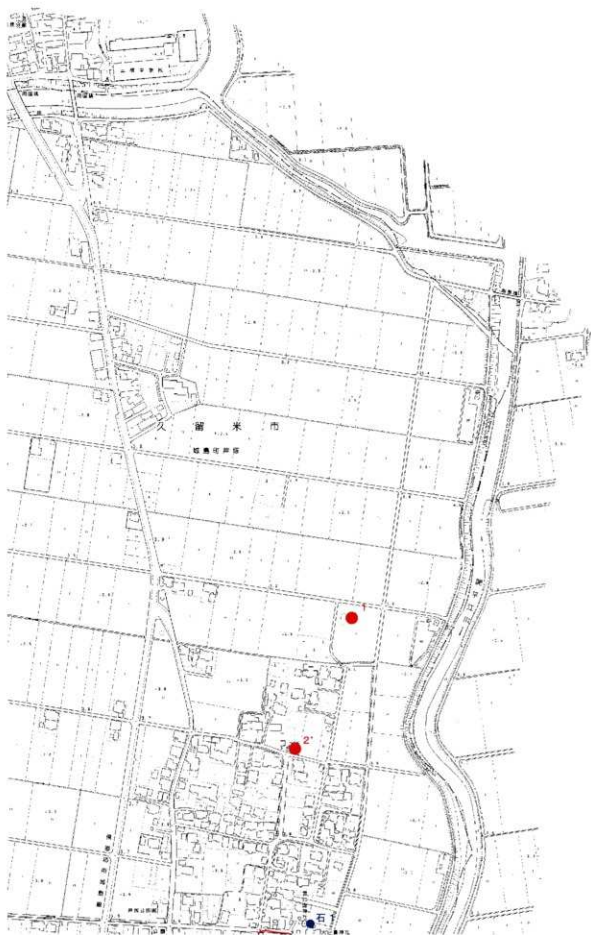
西村ますみ・若林 由美

なお、調査に際し、地元住民の皆様には所有地への立入りや情報の提供等、多大なるご協力をいただきました。末文ながら謝辞を表します。

Ⅱ. 調査の内容



第1図 城島町管内地図割付図



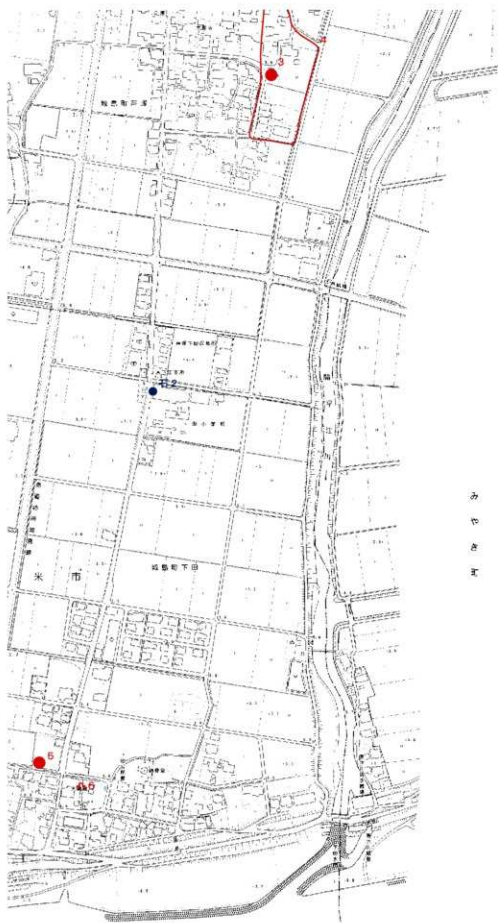
第2図 遺跡等分布地図1 (1/2,500)

みやき町



第3図 遺跡等分布地図2 (1/2,500)

II. 調査の内容

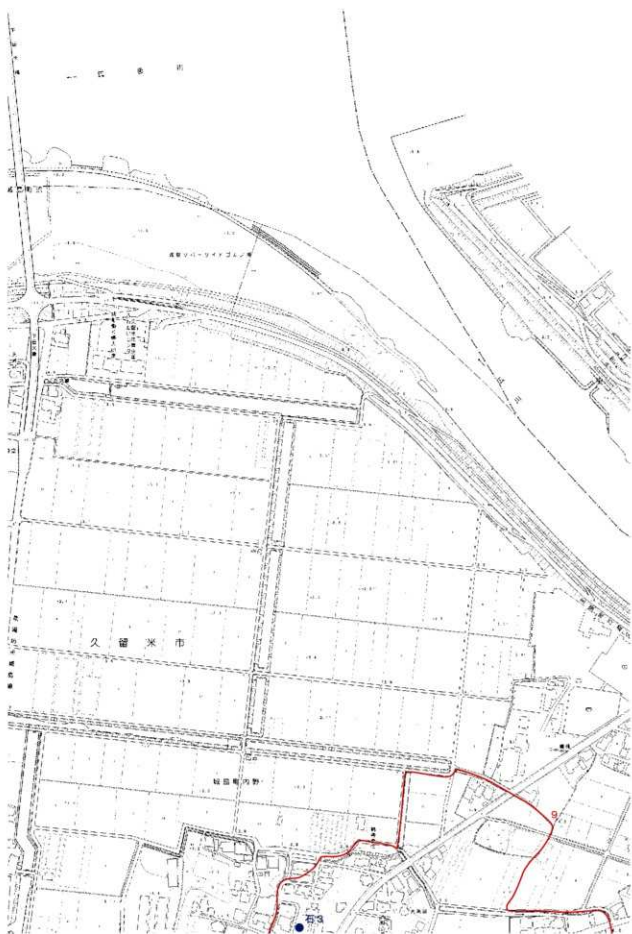


み
や
き
江

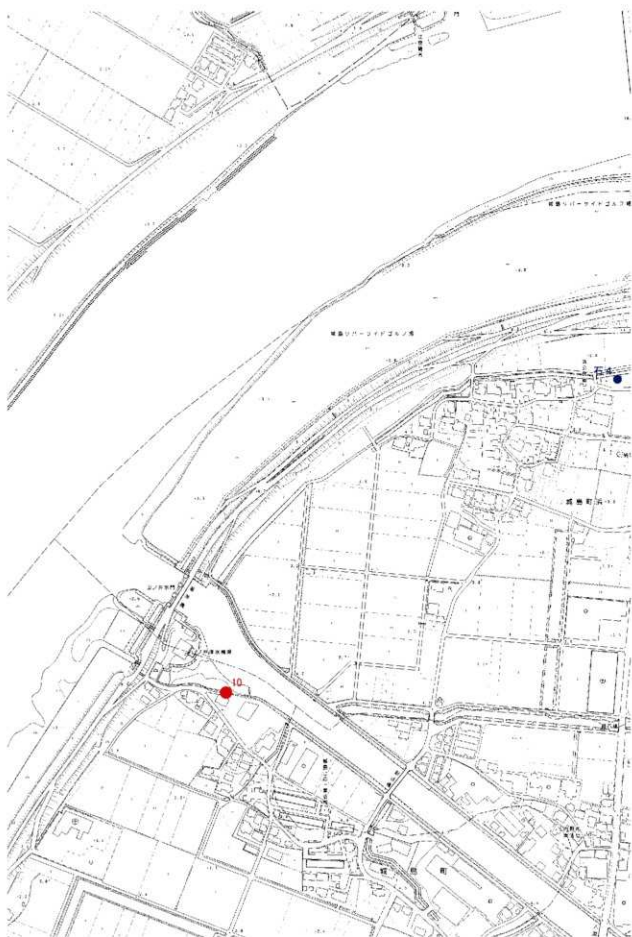
第4図 遺跡等分布地図3 (1/2,500)



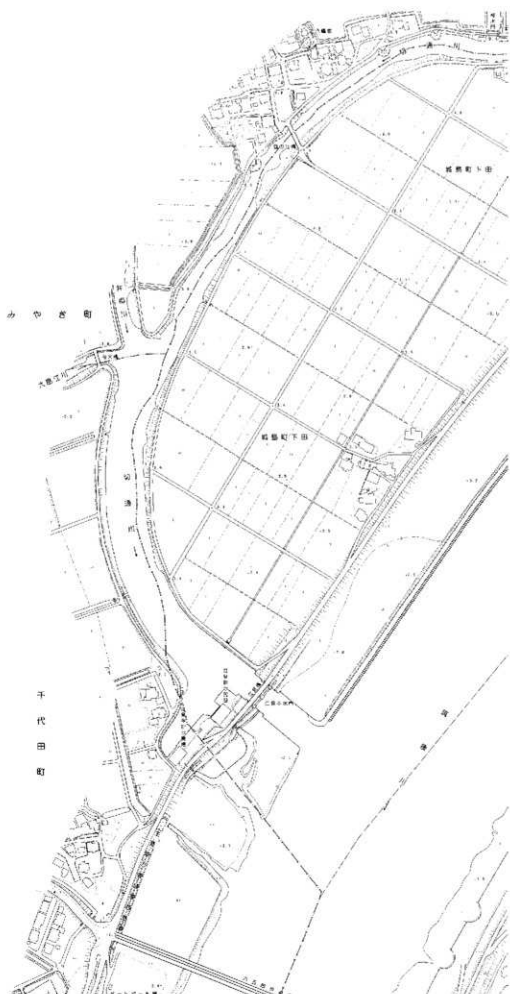
第5図 遺跡等分布地図4 (1/2,500)



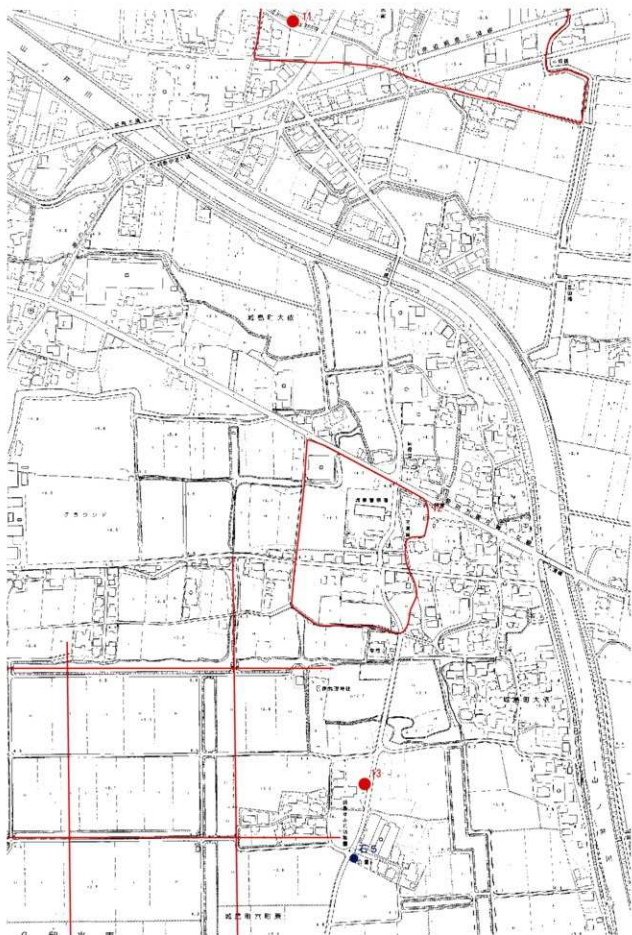
第6図 遺跡等分布地図5 (1/2,500)



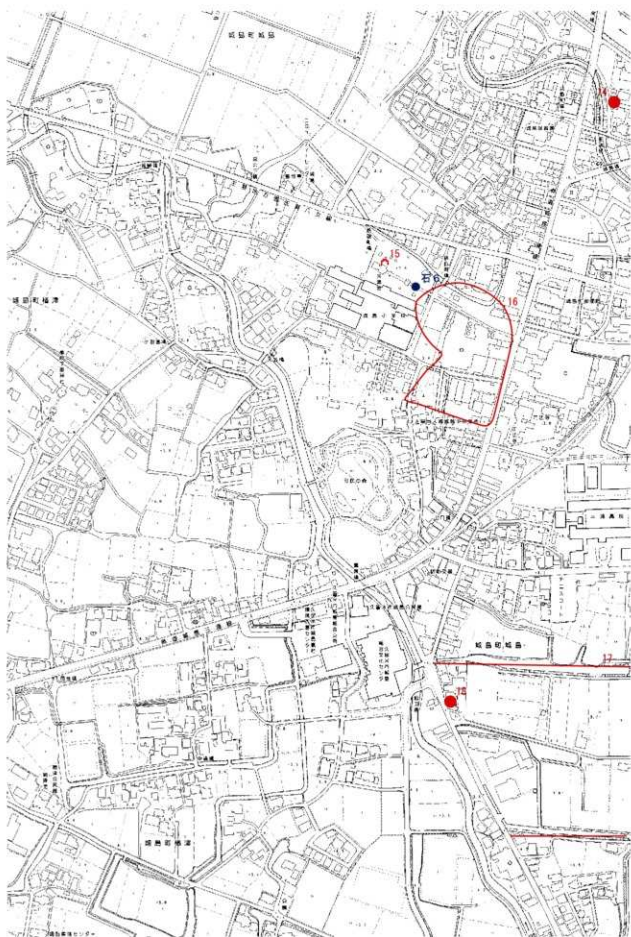
第7図 遺跡等分布地図6 (1/2,500)



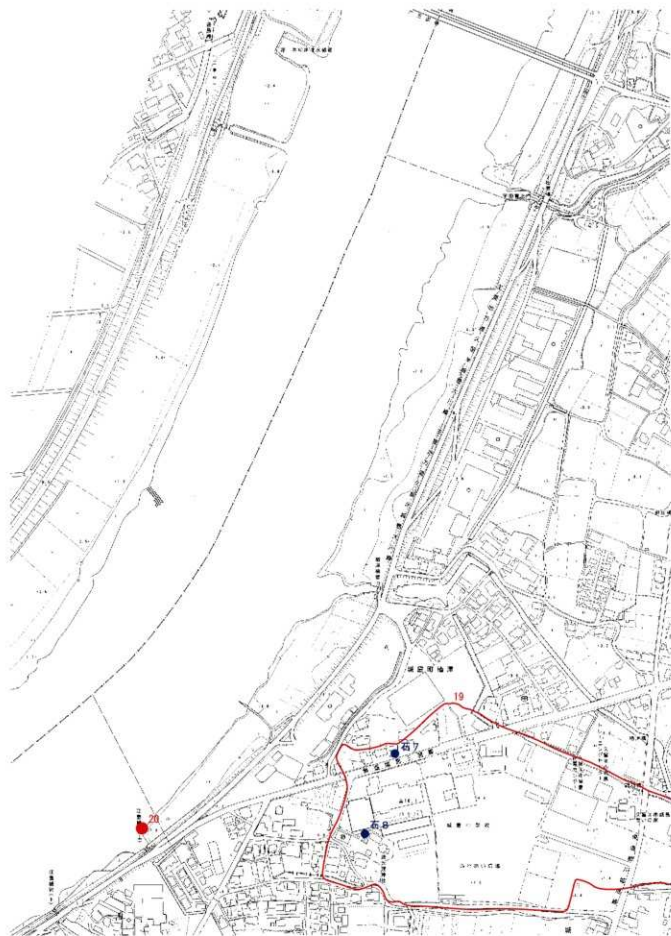
第8図 遺跡等分布地図7 (1/2,500)



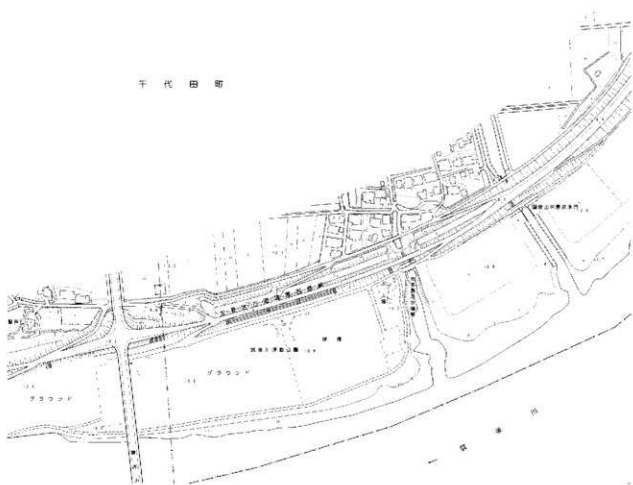
第9図 遺跡等分布地図8 (1/2,500)



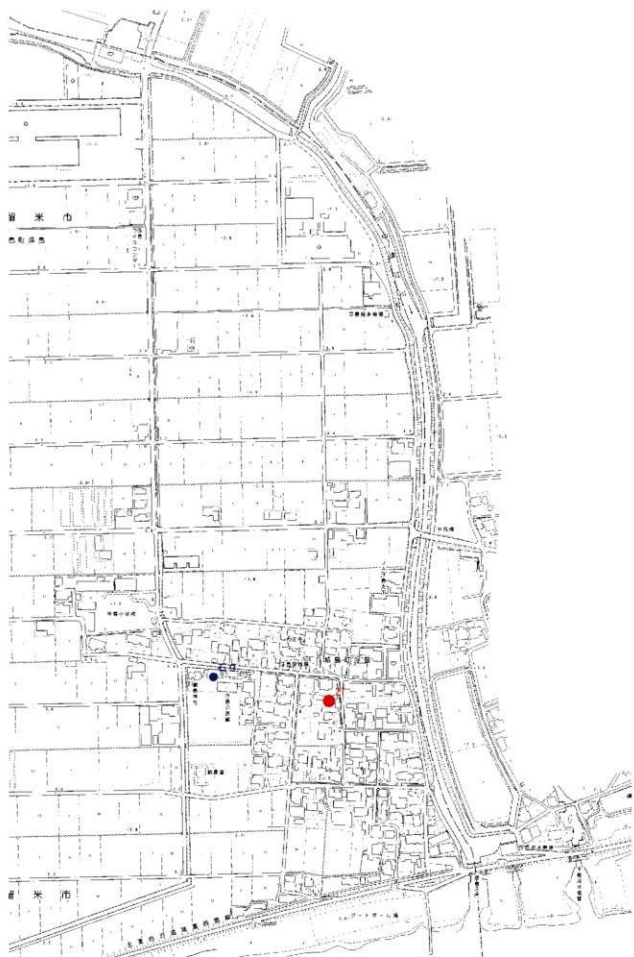
第10図 遺跡等分布地図9 (1/2,500)



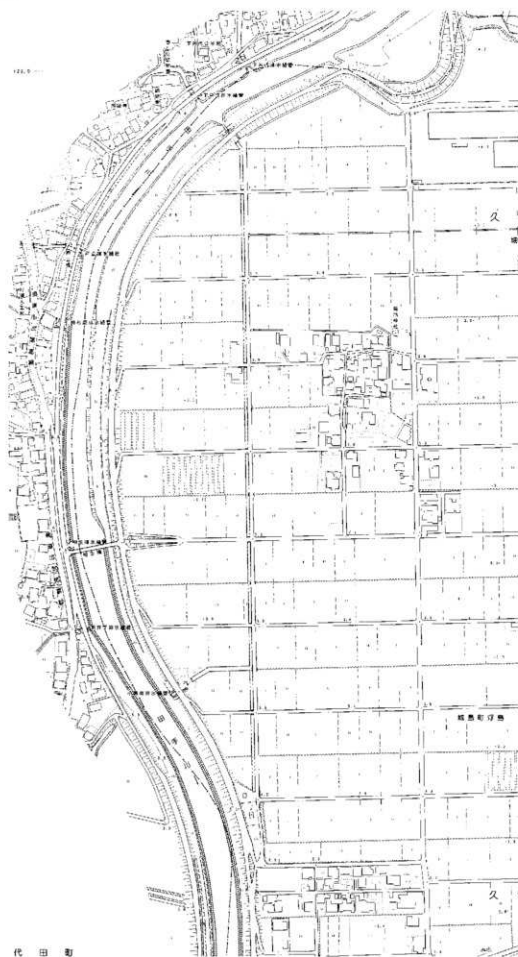
第11図 遺跡等分布地図10 (1/2,500)



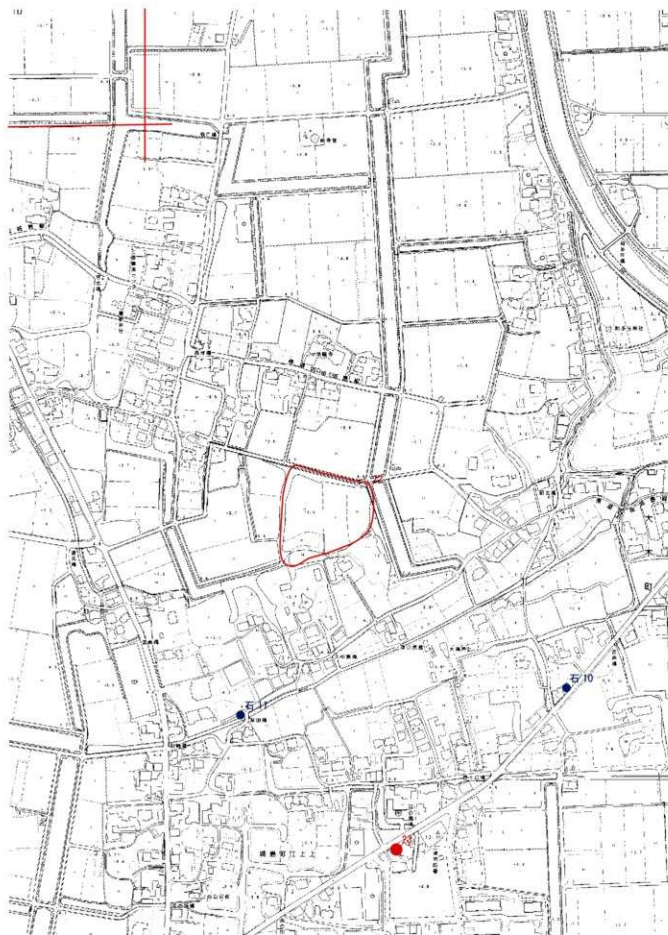
第12図 遺跡等分布地図11 (1/2,500)



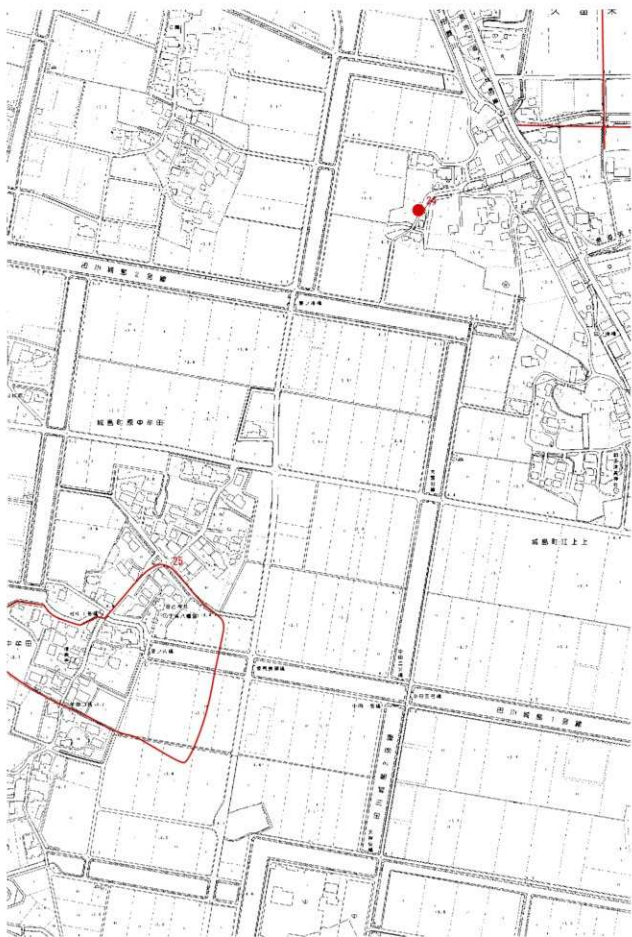
第13図 遺跡等分布地図12 (1/2,500)



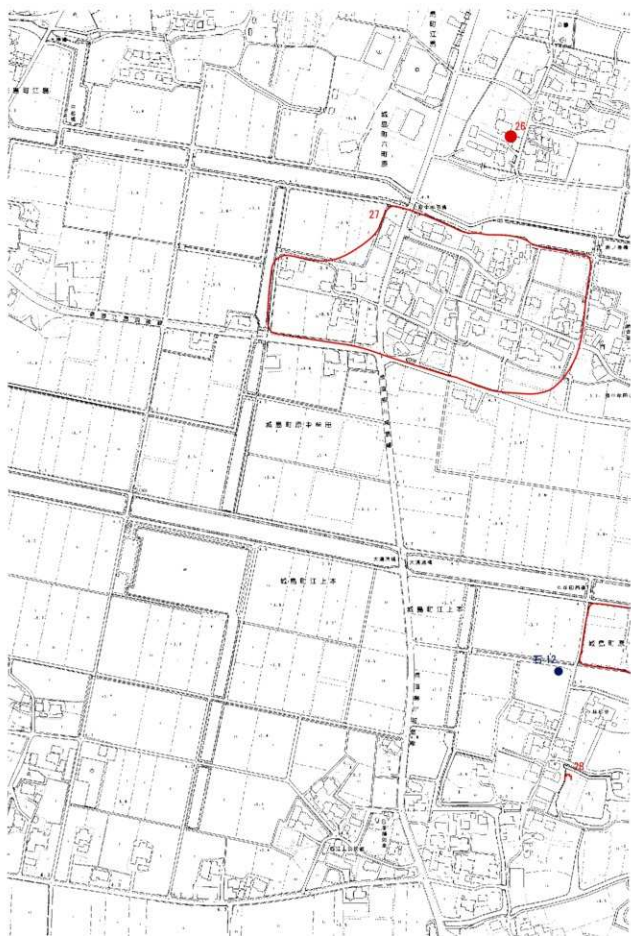
第14図 遺跡等分布地図13 (1/2,500)



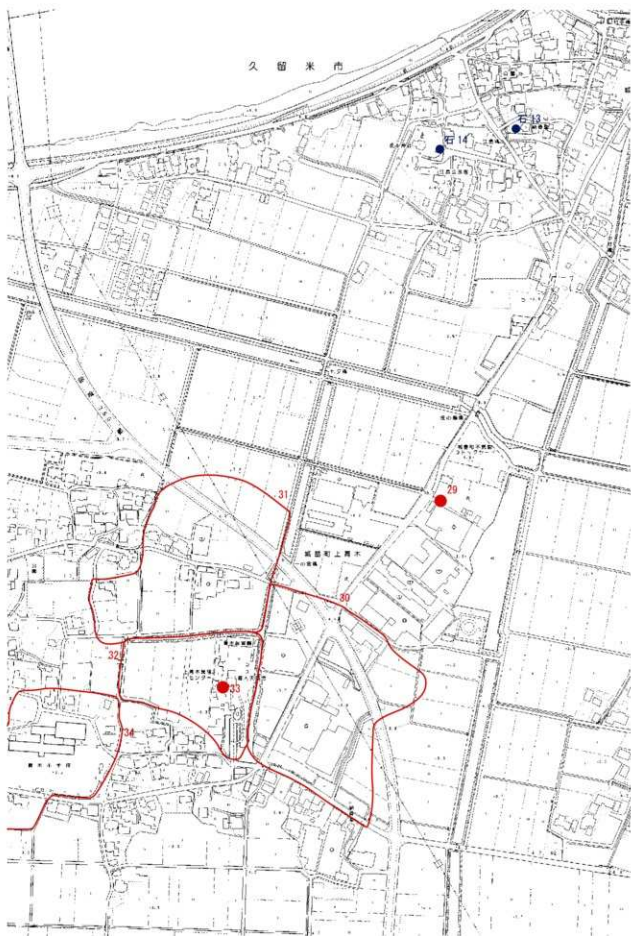
第15図 遺跡等分布地図14 (1/2,500)



第16図 遺跡等分布地図15 (1/2,500)



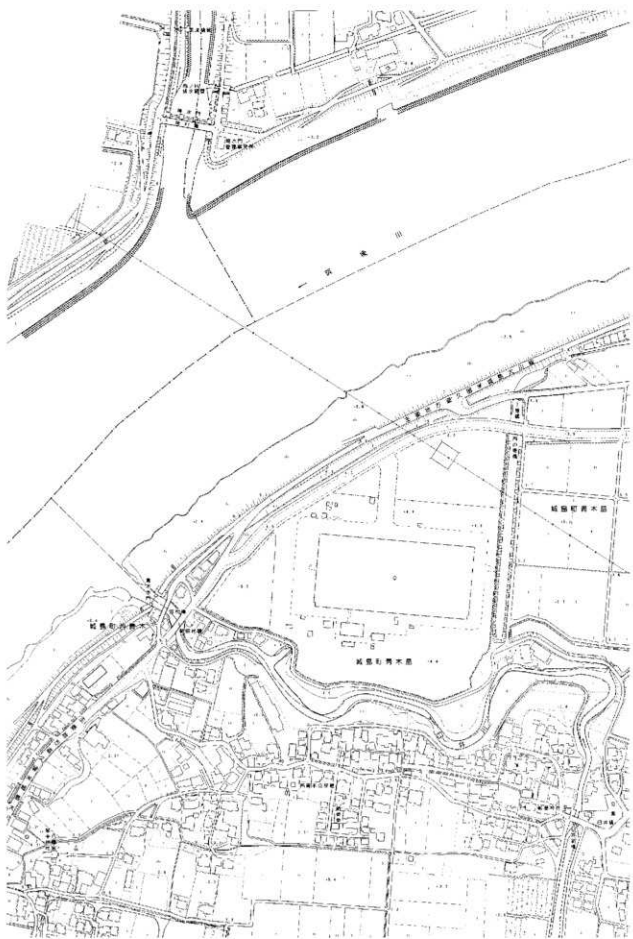
第17図 遺跡等分布地図 16 (1/2,500)



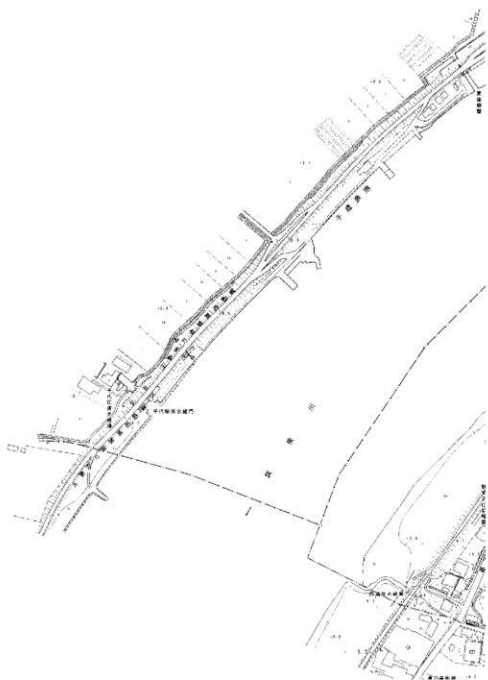
第18図 遺跡等分布地図17 (1/2,500)



第 19 図 遺跡等分布地図 18 (1/2, 500)



第20図 遺跡等分布地図19 (1/2,500)



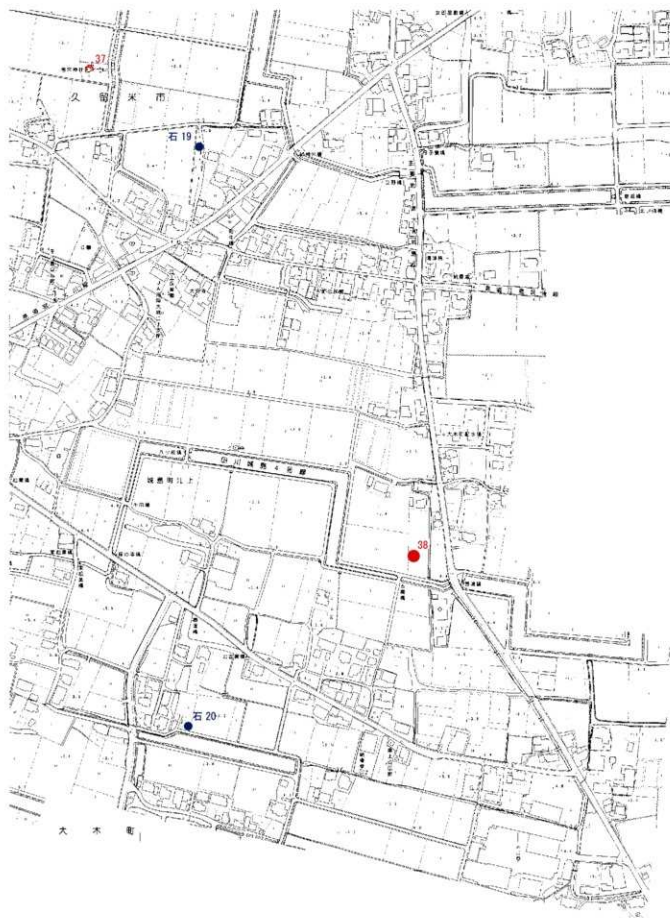
第 21 図 遺跡等分布地図 20 (1/2,500)

Ⅱ. 調査の内容

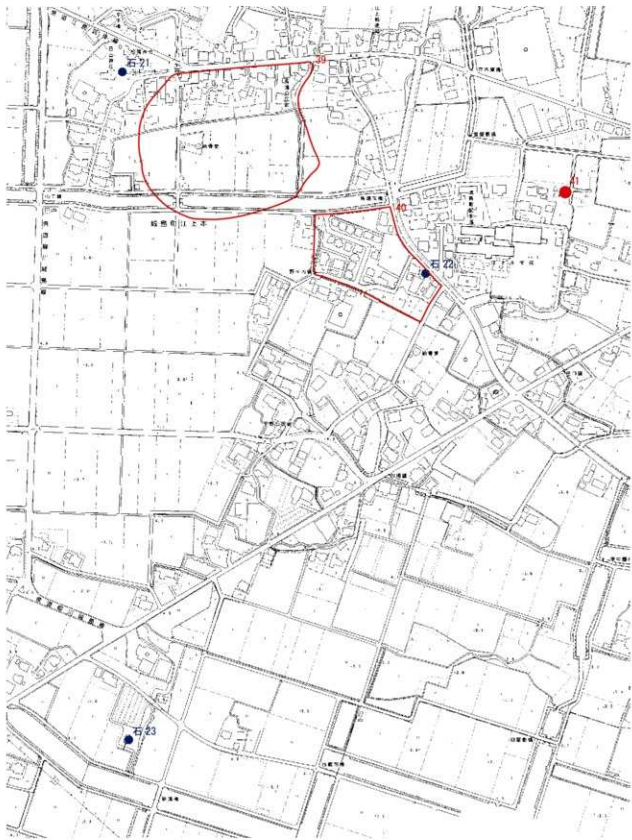


大 本 町

第 22 図 遺跡等分布地図 21 (1/2,500)



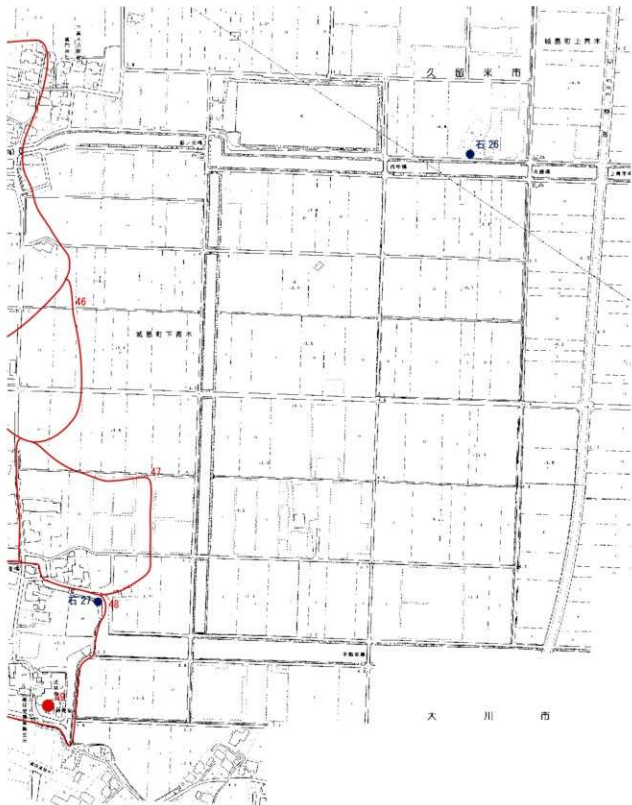
第 23 図 遺跡等分布地図 22 (1/2, 500)



第 24 図 遺跡等分布地図 23 (1/2, 500)



第 25 図 遺跡等分布地図 24 (1/2,500)



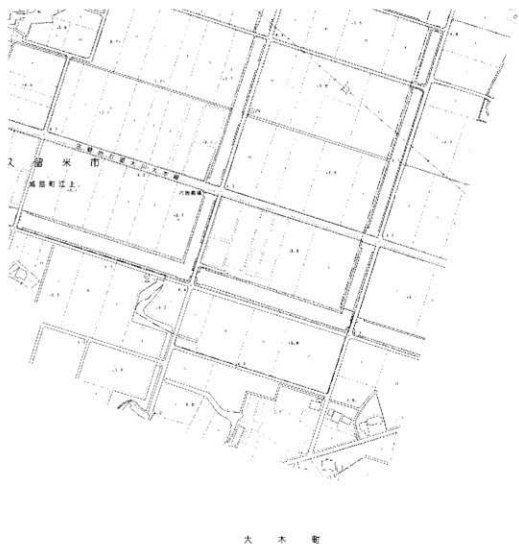
第 26 図 遺跡等分布地図 25 (1/2,500)



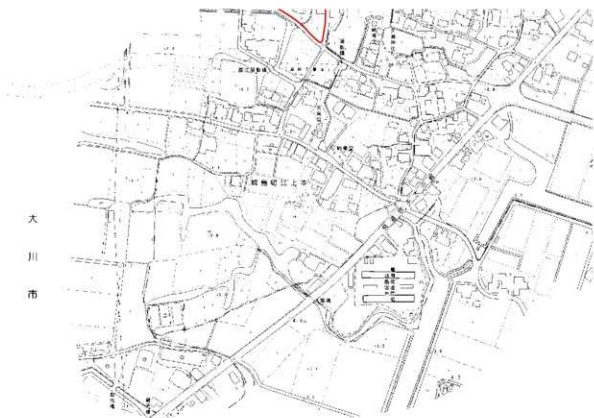
第 27 図 遺跡等分布地図 26 (1/2,500)



第 28 図 遺跡等分布地図 27 (1/2,500)



第 29 図 遺跡等分布地図 28 (1/2, 500)



第30図 遺跡等分布地図29 (1/2, 500)

城島町遺跡等一覧表

地区番号	県番号	名称	種別	所在地	時代	遺跡の概要	備考
1	690001	薄井板碑	板碑	久留米市城島町芦塚 685-2	室町時代	応安 2 年 (1369) 銘、地蔵板碑	
2	690002	北小路地蔵板碑群	板碑	久留米市城島町芦塚 971	江戸時代	弘治 4 年 (1588) 銘のある板碑の他、板碑・一石五輪塔・六地藏各 1 がある。	阿弥陀如来坐像は平成 16 年 8 月 9 日指定
3	690003	宮ノ脇板碑群	板碑	久留米市城島町芦塚 845	江戸時代	一石五輪塔 6・板碑 12・地蔵板碑 3	
4	690004	宮ノ脇遺跡	散布地	久留米市城島町芦塚 845	南北朝時代	土師器などが多数散布	
5		堤貞元墓	古墓	久留米市城島町下田字徳永	江戸時代	堤豊後守貞元の神墓。下田に館を築いた貞正から 5 代目にあたる。文政 5 年 (1822) 建立。	
6	690021	下田村城跡	城跡	久留米市城島町下田	戦国時代	南北 80 間、東西 60 間。堤貞正入道妙光が寛政 3 年 (1462) に築造。	
7		堤氏夫人墓	古墓	久留米市城島町下田字徳永	江戸時代	巨石 4 基。いづれも堤婦人達の墓という。享保 19 年 (1734)、延享元年 (1744)、宝暦 5 年 (1755) 建立。	
8		下田の渡し跡	跡地	久留米市城島町下田	江戸時代	元禄 3 年 (1690) ころに開地。平成 6 年 (1994) に下田大橋の完成とともに姿を消す。	
9	690020	内野遺跡	散布地	久留米市城島町内野	弥生時代	弥生土器などが多数散布。	
10		番所跡	跡地	久留米市城島町城島字度手	江戸時代	筑前・肥前との国境に遠見番所を設け、他国船の出入や通過等を監視し、報告させたという。	
11	690005	己板碑	板碑	久留米市城島町内野字東屋敷	江戸時代	天正年間、薩摩寺氏に滅せられた筑後の薩摩氏が、この地に隠れ住み、東殿寺という小庵を建立した多説を示すものという。	
12		大依寺ノ脇遺跡	散布地	久留米市城島町大依寺ノ脇	弥生時代	弥生土器など。貝塚があった(城島警察署付近)との話もある。	
13		山法師塚	石碑	久留米市城島町六町原	江戸時代	不動明石を祀った石碑。	
14		船溜、高札場跡	跡地	久留米市城島町城島	江戸時代	かつての船着場で、藩庁の公文書を掲げた場所である。	
15	690006	城島城跡	城跡	久留米市城島町城島 327	安土・桃山時代	天満宮境内。石垣、内堀が現存する。	
16	690030	城内・浦田遺跡	散布地	久留米市城島町城島字城内・浦田	中世	土師器・陶磁器などが散布	
17	690007	ハツ手桑里	桑里	久留米市城島町城島	江戸時代(?)	「ほのけ」掘削りなどから推測するものの、現在は崩壊で名残を残すものはない。	
18		六町原村一里塚	一里塚	久留米市城島町六町原	江戸時代	久留米城下を基点とし、34 町ないしは 40 町の距離を隔て、道路の両側に相対して築かれたが、現在は道路の拡張によりその姿はない。	
19	690022	久保遺跡	集落	久留米市城島町橋津字久保	弥生・中世	主な遺構は井戸、土坑、溝などがある。弥生時代の井戸からは銅製鉄系無文土器など多数の遺物が出た。(注 1)	福岡県遺跡分布では「高津遺跡」
20		おせん荒籠跡	護岸	久留米市城島町江島	江戸時代	「お仙」という商屋の娘にちなんで名付けられた。筑後川に多く見られる護岸跡。	
21		菊池家文書	文書	久留米市城島町浮島	近世	寛文 9 年 (1669) から慶応 2 年 (1866) にわたるもので、浮島開発に関する文書など 17 点が伝えられている。	
22	690024	小柳遺跡	散布地	久留米市城島町六町原	弥生・中世	弥生土器・土師器・陶磁器などが散布	
23	690008	平野板碑	板碑	久留米市城島町江上上 442-1	江戸時代(?)	板碑 1。一石五輪塔 2	
24		江上上塚跡	経塚	久留米市城島町江上上字原口	江戸時代	江上・八院合戦の決戦場で、両軍の戦死者を弔うため法華経を埋めたという。	
25	690033	原中半田遺跡 B	散布地	久留米市城島町原中半田字中半田	中世	土師器などが多数散布	

Ⅱ. 調査の内容

地区番号	県番号	名 称	種別	所 在 地	時 代	遺 跡 の 概 要	備 考
26		庄屋門	建造	久留米市城島町橋津字諏訪	江戸時代	先祖は西平田氏の家老・流氏の一族で、今も門が「庄屋門」と呼ばれ現存する。	
27	690032	原中牟田遺跡A	散布地	久留米市城島町原中牟田	中世	土師器などが多数散布	
28	690011	西江上城跡	城跡	久留米市城島町江上本166	中世	面積22歩。弟・江上三郎忠種の城館跡。	
29	690035	吾梅庵寺	廃寺	久留米市城島町上青木字北大門	安土・桃山時代	上青木老松宮司累代の墓所があり、墓石などが多数埋まっていたという。	
30	690026	上青木北大門遺跡	集落	久留米市城島町上青木字北大門	弥生～	弥生土器・須恵器などの他、木製品や縄文、鉄器などの自然遺物が多数出土した（注2）	県分布地図では「北大門遺跡」
31	690027	四郎丸遺跡	散布地	久留米市城島町四郎丸	中世	土師器・陶磁器などが散布	
32	690013	宮園遺跡	散布地	久留米市城島町上青木	弥生時代	弥生土器などが多数散布。	
33	690012	宮園宝篋印塔	石塔	久留米市城島町上青木960	南北朝時代	上青木天満宮境内。上青木老松宮司累代の墓所。宝篋印塔片、墓石、梵字板碑などが多数出土。	
34	690029	上青木貝塚	貝塚	久留米市城島町上青木	弥生時代	弥生土器などが多数散布。	
35	690015	坂本神社板碑群	板碑	久留米市城島町四郎丸	江戸時代	坂本神社境内に4基	
36	690014	城ノ元五輪塔	石塔	久留米市城島町上青木794-2	江戸時代	他に板碑1基	
37	690010	東江上城跡	城跡	久留米市城島町江上182	室町時代	城跡の面積は4畝21歩。兄・江上四郎種冬の城館跡。	
38	690009	九品寺跡	寺跡	久留米市城島町江上593-3	室町時代	伝天文年間建立	
39	690023	馬場遺跡	散布地	久留米市城島町江上字馬場	弥生時代	弥生土器などが散布。	
40		北ノ屋敷遺跡	集落	久留米市城島町江上木字北屋敷	中世～江戸末	戦国末から江戸初期の堀に囲まれた屋敷跡が確認された他、井戸、掘立建物跡などが確認されている。（注3）	
41		宝蔵寺跡	廃寺	久留米市城島町江上字千代島	不明	かつては「江上殿寺屋敷」とよばれていた。現在は大師堂が建立されている。	
42	690018	山ノ下遺跡	散布地	久留米市城島町江上本	弥生～	宇志岐神社周辺を中心に弥生土器など散布	
43	690019	山ノ下板碑	板碑	久留米市城島町江上本1767	江戸時代	宇志岐神社境内に2基。他に六地藏1基	
44	690031	簡江遺跡	散布地・貝塚	久留米市城島町江上本	弥生～	弥生土器・土師器などが散布	
45	690028	下青木遺跡	散布地	久留米市城島町下青木	弥生時代	弥生土器が多数散布	
46	690025	能保里貝塚	貝塚	久留米市城島町下青木字能保里	弥生時代	弥生土器が多数散布	
47	690034	法林寺遺跡	古墳	久留米市城島町下青木字能保里	弥生・中世	弥生土器・陶磁器などが散布	
48	690017	能保里遺跡	散布地	久留米市城島町下青木	弥生時代	弥生土器・黒曜石片などが散布	
49	690016	法林寺宝篋印塔	石塔	久留米市城島町下青木543	南北朝時代	法林寺境内。下林の天満宮境内にあったものが明治の神仏分離の際この地に移設。	福岡県指定文化財

注1 久留米市教育委員会 2006『久保遺跡』久留米市文化財調査報告書 第225集

注2 久留米市教育委員会 2006『上青木北大門遺跡』久留米市文化財調査報告書 第237集

注3 城島町教育委員会 1994『北ノ屋敷遺跡』城島町文化財調査報告書 第1集

城島町主要石像物一覧表

番号	種 別	所 在 地	備 考	図版 番号
石 1	板碑等	久留米市城島町戸塚		2
石 2	六地藏	久留米市城島町下田		4
石 3	六地藏	久留米市城島町内野		6
石 4	肥前狛犬	久留米市城島町浜	平成 9 年 10 月 1 日 市指定	7
石 5	六地藏（一部）	久留米市城島町大依		9
石 6	肥前鳥居	久留米市城島町城島	平成 9 年 10 月 1 日 市指定	10
石 7	板碑	久留米市城島町橋津		11
石 8	六地藏	久留米市城島町橋津		11
石 9	肥前狛犬	久留米市城島町浮島	他に境内に板碑等集積	13
石 10	六地藏	久留米市城島町江上上	民家の庭先に竿部のみ	15
石 11	六地藏	久留米市城島町江上上		15
石 12	伝・江上三郎墓所	久留米市城島町江上本		17
石 13	六地藏他	久留米市城島町江島	納骨堂敷地内に集積。	18
石 14	板碑群	久留米市城島町江島	坂本神社境内。樓門に肥前狛犬が。	18
石 15	肥前狛犬	久留米市城島町青木島	青木島天満宮楼門内。着色されている。	19
石 16	板碑	久留米市城島町青木島	青木島天満宮境内。地元では「江頭さん」と呼ばれている。	19
石 17	五輪塔等	久留米市城島町下青木		19
石 18	板碑	久留米市城島町下青木	国庫整備時に寄せ集めたか。地元では「いぼ薬師」と呼ばれている。 梵字板碑 1、板碑 3、六地藏 1	19
石 19	六地藏等	久留米市城島町江上		23
石 20	六地藏	久留米市城島町江上	昭和 5 年に再建。	23
石 21	肥前狛犬	久留米市城島町江上	日吉神社境内。1 体のみ。	24
石 22	六地藏（？）	久留米市城島町江上	屋敷地内に柱部のみ残存。	24
石 23	地藏	久留米市城島町江上	他に、五輪塔残欠が数体散見する。	24
石 24	湯田地蔵	久留米市城島町江上本		25
石 25	五輪塔等	久留米市城島町江上	国庫整備時に寄せ集めたか。	25
石 26	六地藏	久留米市城島町上青木	国庫整備時に寄せ集めたか。	26
石 27	梵字板碑	久留米市城島町下青木		26

Ⅲ. おわりに

『城島町史』によれば、「城島」とは低湿地に点在する小高い所という意味があるという。地名となったのは、平安時代初め、豊島真人時連が大依に土着し、その子時祐が近くの湯州に館を築き、城島太郎時祐と名乗ったことに由来するとのことである。

城島町は約2,000年以上前に、筑後川の沖積作用と有明海の干満作用によって形成された広大な干潟の湿原に人々が移り住み、度重なる洪水や高潮によって、流出や埋没などが繰り返されてきたという。この為か、以前の城島町では弥生時代以前の遺跡は存在していないと言われ続けていた。町内に残る弥生時代以前の遺跡は少ないが、簡江・能保里・上青木・城島など町内の各所から出土する弥生土器が遺跡の広がりやを僅かながら偲ばせている。しかしながら、平成17年度に調査された「久保遺跡」(『福岡県遺跡等分布地図一大川市・筑後市・三潁郡編一』では高津遺跡(散布地)とある)で、弥生時代から中世にかけての集落跡が確認され、擬朝鮮系無文土器などが出土し、有明海沿岸という地の利を活かして半島と交流のあった集落の存在が明らかとなり、町内の低地においても、点在する小高い地区に遺跡が未だに眠っていることが証明されたと言えよう。また、この調査をきっかけに改めて町内の遺跡の分布状況を確認する必要性が大きくなった。

古墳時代の遺跡としては、簡江の字山ノ下は通称「シャカンドン山」と呼んでいるようで、弥生土器の他、須恵器や土師器、直刀、唐銭が出土している。また、堀端や水田の中に巨石が散在しており、古墳の石材ではないかと言われている。城島小学校西側からも須恵器の破片が出土している。

律令時代になると、筑後国の三潁郡に属し六町原付近に条里の面影が残るが、筑後川の乱流による激しい河道変遷のため条里遺構確認は困難となっている。また、『延喜式』にみえる8郷のうち、青木郷(現在の青木地区一帯)と管綜郷(現在の江上地区一帯)が町内に比定されており、「綜」の字が示すように、機織り具を使用する織女集団が居住する村落の存在の可能性も推定されている。

中世になると筑後川のほとりという地の利を活かし、要害として存立した城島・下田には平城が築かれていた。永禄3年(1560)に下田の村中久里に下田城が築城される。現在の下田天満宮境内を中心に城館があったと言われている。また、天正11年(1583)に城島城が築城された。現在の城島小学校・天満宮を中心に築かれ、境内の一隅に本丸の礎石であったという巨石一つが残されている。この他、江上本村の西江上に江上三郎忠種の城が、江上字館古賀に兄の四朗種冬の城館があったといわれている。町内の字名には「屋敷」と名の付くものが多くあり、確認されていない多くの屋敷跡が今後発見されることが期待される。

前述したが、城島町の遺跡の発見や広がりやは今後の調査の進展によるところが大きい。今回遺物の散布状況を元に遺跡の追加・範囲増補を行ったが、更なる調査事例等の増加により城島町の歴史が解明されることを大いに期待したい。

参考資料として、今回城島町内に残る石像物の所在確認を合わせて行った。事業初年度に踏査を進めていく中で、板碑や六地藏、さらには民家の庭先に設置された祠やお堂などが至る所で目付いた。板碑の中には古い様式を残すものも数点見受けられ、園場整備によって集積されたであろう板碑や六地藏、また、神社にある肥前型狛犬など中世以降の城島の集落や周辺との交流、城島の民俗などを考える上で手がかりとなる資料であろうと思い確認調査を実施した。今回の地図には、江戸時代以降に設置されたと思われる街角の恵比寿像などの石像物並びに民家の祠やお堂などは割愛し、六地藏・肥前狛犬・板碑を中心に地図上に位置を落として所在地の把握のみに留めた。残念なことに、六地藏などの多くは園場整備時に集積され、本来の位置が不明となっている物が大半を占めているが、古えの城島町を知る上で貴重な資料となるであろう。



(1) 調査風景



(2) 土器散布状況



(3) 宮ノ脇板碑



(4) 導善板碑



(5) 北小路地蔵板碑群



(6) 庄屋門



(7) 九品寺跡



(8) 東江上城跡の祠



(1) 浮島・厳島神社狛犬(石 9)



(2) 浮島・厳島神社狛犬(石 9)



(3) 六地藏(石 2)



(4) 日吉神社肥前狛犬(石 21)



(5) 西青木天満宮板碑(石 16)



(6) 江上・板碑群(石 19)



(7) 上青木・六地藏群(石 26)



(8) 檜津・板碑(石 7)

報 告 書 抄 録

ふりがな	くろめしじょうにままちいせきとうしょうさいぶんぶちようきほうこくしょ
書 名	久留米市城島町遺跡等詳細分布調査報告書
副 書 名	
シリーズ名	久留米市文化財調査報告書 第292集
編 著 者 名	塚本 映子
編 集 機 関	久留米市 文化観光部 文化財保護課
所 在 地	〒830-8520 福岡県久留米市城南町15番地3 TEL 0942-30-9225 FAX 0942-30-9718 E-mail: bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp
発行年月日	平成22年(2010) 3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査の原因
		市町村	遺跡番号					
くろめしじょうにままちない 久留米市城島町内 いせきぶんぶちようき 遺跡分布調査	ふくおひけんくろめし 福岡県久留米市 じょうにままち 城島町	40203	—	33° 15' 11"	130° 25' 39"	20080109 ～20080222 20090107 ～20090325	250 km ²	久留米市城島町内 の遺跡詳細分布 調査および分布 地図作成
所収遺跡名	種 別	時 代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
くろめしじょうにままちない 久留米市城島町内 いせきぶんぶちようき 遺跡分布調査		弥生 江戸	なし		弥生土器 土師器 須恵器 陶磁器		昭和54年度発行の福岡県遺 跡分布等詳細地図の増補版 である。新発見となる遺跡 などは確認されなかったが、 『城島町史』記載の遺跡な ど追加された遺跡があるほ か、町内に残る石像物の確 認などをあわせて実施した。	
要 約								
久留米市城島町は、福岡県の南西部、筑後川下流の洪積平野である広大な筑後平野の西部に位置し、南は三潁郡大木町、南西部は大川市と隣接する。筑後川を隔てた対岸にも飛び地があり、佐賀県みやき町・神崎市と接している。町内の大部分は標高4 m程度の低湿地である。旧城島町内では平成5年度に行われた北ノ屋敷遺跡と平成16・17年度に行われた久保遺跡の2件の発掘調査しなく、それまでは古代の海岸線などから推測し、長年の流出・埋没などから、弥生時代以前の遺跡の存在は皆無に等しいと考えられていた。久保遺跡の調査成果によって、曖昧であった町内の遺跡の情報の整理が急務となり「遺跡等詳細分布調査」を実施し、データの把握につとめたが、踏査による調査の限界もあり、今回の調査は昭和54年発行の「福岡県遺跡等分布地図」の補強・補正にとどまる結果となった。								
土木工事の届出日			—		遺物の発見届日		平成20年2月27日 (19文財第1232号) 平成21年3月30日 (20文財第1296号)	

*北緯・東経は「世界測地系」に基づく

久留米市城島町遺跡等詳細分布調査報告書

【久留米市文化財調査報告書 第292集】

平成22年3月31日

発行 久留米市教育委員会

編集 久留米市役所
文化観光部文化財保護課

印刷 永松印刷
福岡県久留米市中央町20-22